

第九回溶融事故における核燃料関連の課題検討ワーキンググループ
(核燃料部会運営小委員会と合同) 打合せ 議事録

日 時：平成25年4月26日(金) 13:30~16:00

場 所：東大工学部12号館2階会議室

配布資料：

- 9-1 第八回溶融事故における核燃料関連の課題検討ワーキンググループ議事録(案)
- 9-2 溶融事故における核燃料関連の課題検討ワーキンググループ報告書骨子(案)
- 9-3 2013年秋の大会(9/3-5)企画セッション提案書

出席者(敬称略、順不同)：

山中、黒崎(阪大)、岩田(事業構想大)、鈴木(東大)、卷上(東電)、真寄(関電)、野田(中部電)、永瀬(原子力機構)、尾形(電中研)、高野(三菱原子燃料)、大脇(NFI)、宇根、平井、伊東(NFD)、草ヶ谷(GNF-J)、安部田(JANSI)、樽松、伊藤(NDC)

議事内容：

(1) 前回議事録の確認(幹事)(資料9-1)

幹事より、本日の議題を説明した後、資料9-1に基づいて、第八回溶融事故における核燃料関連の課題検討ワーキンググループ(WG)議事録を説明した。永瀬委員より、「WVER」を「VVER」に、「SARNET-3」を「後継プログラム」に修正するようとのコメント、尾形委員より、溶融燃料SWGを「秋ごろ」から「年内」まで継続するとの記載に変更するようとのコメントが出され、修正・変更することとした。

(2) 報告書骨子案審議

黒崎幹事から、資料9-2に基づいて、報告書に記載する内容と執筆担当者案が説明された。基本的な内容は了承されたが、2012年春の企画セッションにおける杉本先生(京大)、永瀬委員(JAEA)及び2013年の春の企画セッションにおける山中主査、鈴木委員、永瀬委員、尾形委員の講演内容もWGの活動報告の中にも含めることとなった。

各執筆担当者は6月末までに原稿を黒崎幹事まで提出し、黒崎幹事にて全体を取り纏めることとした(内容に関して8月上旬の第10回WGにて審議する)。

(3) 山中主査挨拶

山中主査より、学会事故調における審議状況が紹介された。事故調から研究テーマの提出要請を受けていることへの対応に、尾形委員等に纏めていただいた資料が役立っていること、WGの2年間の活動成果をきちんと纏めて提言していくこととしたい

旨のご挨拶をいただいた。

(4) 秋の学会企画セッション（案）審議

平井委員から学会に提出済みの2013年秋の大会企画セッション提案書について説明がなされた。企画セッションをWG報告（山中主査）、溶融燃料SWG報告（尾形委員）、研究課題検討SWG報告（鈴木委員）から構成することが了承された。報告内容は、現在作成を進めている報告書がベースとなる。

(5) 今後の進め方

安部田幹事より、エネ庁委託で学会に特別専門委員会が設置され（本年2月）、6月を目途に技術戦略マップを作成する方向で作業が進んでいること、これを受けて、核燃料部会内に設けた核燃料タスクフォースを中心にして、急ぎ、5件の課題を抽出して送付していることが紹介された。

この状況に対して、委員の多くから、課題の中身について核燃料部会としてオーソライズすることで抽出課題の重みも増すとの意見が出され、今後、その方向で作業を進めていくことが了承された。

以上